

日本経済政策学会第 13 回国際会議・実施報告書

The 13th International Conference of the Japan Economic Policy Association

日時： 2014 年 11 月 8-9 日

場所： 明治大学駿河台校舎リバティタワー

日本経済政策学会の第 13 回国際会議を 11 月 8-9 日の 2 日間に会って明治大学駿河台校舎で開催した。この会議は、共通論題を "*Policy Evaluation and Economic Theory: How Can We Measure the Effects of Policy Changes?*" として、"*The Macroeconomic Effects of Consumption Tax Increase and other Abenomics Policies*" 及び "*The Policy Effects of TPP agreements*" に関する 2 つのプレナリーセッションと、53 報告からなる 20 のパラレルセッションをもつ会議であった。

8 日に行われたプレナリーセッションでは、ケンブリッジ大学の Philip Arestis 教授が "*The Problematic Nature of the Inflation Targeting Theoretical and Policy Framework*" に関する報告を行い、サザンプトン大学の Richard A. Werner 教授が予定討論を行った。

9 日のプレナリーセッションは、TTP 協定の政策効果に関して

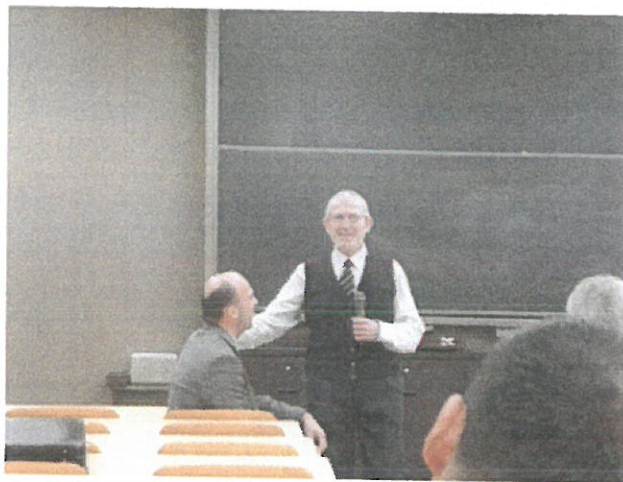
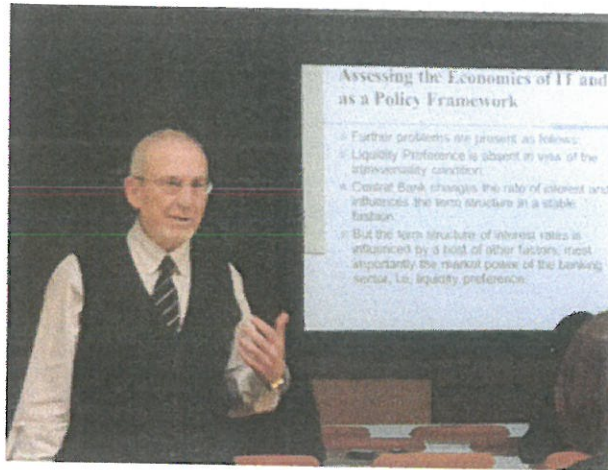
- 1) Closer economic relations between China and East Asia and the impact of fluctuations in the Chinese Shadow Bank
 - 2) Winery management and international competition of Japan and international agreements
 - 3) The Japanese winery management and international agreements from a viewpoint of EU
- の 3 つの基調講演をもとに討論が行われた。

8 日の懇親会には、明治大学長の福宮教授からも挨拶を賜った。参加者数も全体で 2 日間で 129 人を超え、アベノミックスや TTP 協定を取り上げた今回の国際会議は学術的にもまた政策的にも有意義な会議であった。

詳細はホームページ：<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~jepa2014/>

報告者：千田亮吉

全体会 : Philip Arestis 教授(ケンブリッジ大学)



Richard A. Werner 教授(サザンプトン大学)



福美や学長からの主催校挨拶



